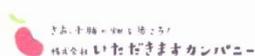


柵の木からの手紙

2019年 3月号



いただきますの心を育む

記録的な寒波に襲われた1月下旬2月上旬。その分2月下旬から暖かさを感じ3月が4月の様に思ってしまう天候。

3月と言えば、美幌会の総会の月ですが、今年は施設を借りての総会ではなく、この会報に添付した決算報告書等の書類での確認といたします。行事等は、その都度案内しますので興味のある方は都合を付けてご参加下さい。また、美幌会の新年度会費¥1,000を承っていますので高橋、村田、田中、深尾、橋本にお声掛け下さい。現在会員は8名の方が更新されています。5月まで旧会員の方にも会報を発行致しますのでその間に会員の更新手続きをお願い致します。

6日： 啓蟄

7日： 新月 :旧 2月 1日

21日： 春分 :満月 旧 2月15日

3 月 弥 生						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

この冬は、東京オリンピックに向けて脚光を浴びているGAPの取組を、高橋農場にも取り入れて、GAP認証の取得は兎も角として農場管理をより良い方向に向ける取組みを始めました。まずは、農薬と肥料の管理から。高橋農場は、有機JAS認証を取得した畑を持っていますので、農薬や肥料を保有している理由を明確にして数量等を管理している事は、有機JASの信用にも係ってくると思います。

2019.3.2 北見工業大学オホーツク農林水産工学連携研究推進センター第1回シンポジウム 基調講演



またこの冬は、網走での活動に参加する事が多くありましたが、美幌でも1・2月に美幌商工会議所での活動がありました。中でも2月25日の「畑ガイド」の研修会には、美幌会会員の方も参加されていて自分達の活動の励みに成ったのではないかと思います。

3月2日には、北見工業大学で九州鹿児島県「鹿屋市でのまちおこし」の事例発表が行われました。

両者の共通点としてこんな風を感じています。

色々な人・職種・環境を巻き込んで会社・地域全体で取り組んで行く事で、短期的なその時限りのビジネスで無く、取組み側の人の成長により長期的な将来に向けてのビジネスが期待できる。また、畑ガイドなどでお客様に体験してもらい、知って貰う事等も単にビジネスに留まらず相手の成長に繋がり将来的に良い地域・世の中に向かうと感じました。地域おこし・まちおこしと言うと、観光客を呼んでお金を落として貰う様に考えがちですが、地域に暮らす人々や観光客のこころの成長も重要でその様に出来る仕組みが重要だと考えています。